



大阪科学・大学記者クラブ 御中
(同時資料提供先：大阪市政記者クラブ)

2016年10月11日
公立大学法人大阪市立大学 広報室

公立大学法人大阪市立大学・公益財団法人大阪市博物館協会 包括連携協定企画

シンポジウム『真田丸』の歴史学を開催します

大阪市立大学と大阪市博物館協会は、平成28年12月17日(土)に大阪歴史博物館講堂において、シンポジウム『真田丸』の歴史学を開催します。

大河ドラマ「真田丸」に関してさまざまな講演会が催され、書籍が出版されていますが、真田丸を学術的に検討した成果は限られています。ましてそれを市民向けに発信する機会はほとんどありません。

本シンポジウムでは、最新の研究によって真田丸がどこまで解明できるのかを追究します。新発見の絵図なども活用しながら既存の復元研究を批判するとともに、新しい視点から真田丸の意義を明らかにします。また、大阪市立大学ならびに大阪文化財研究所などが、この間取り組んできた豊臣期大坂城解明の成果についてもまとめ、公開します。

1. 名 称：公益財団法人大阪市博物館協会・公立大学法人大阪市立大学包括連携協定企画
シンポジウム 『真田丸』の歴史学
2. 日 時：平成28年12月17日(土) 10時20分～16時40分
3. 会 場：大阪歴史博物館 4階講堂
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
(最寄駅) 地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②・⑨号出口
4. 次 第：

【開会挨拶】

【第1部】 <豊臣大坂> ー最新の研究ー (10時30分～12時20分)

1. 「<豊臣大坂>と真田信繁(幸村)」

仁木 宏 (大阪市立大学大学院文学研究科教授)

豊臣時代は日本の歴史上、未曾有の変革期です。大坂は政権の首都としてその中心的舞台でした。真田信繁の大坂での活動と関連づけて大坂城・城下町の意義を解明します。

2. 「見えてきた豊臣期大坂城本丸」

市川 創 氏 (大阪府教育庁文化財保護課技師)

江戸幕府による大坂城再築に際し完全に埋め立てられたため、豊臣期の大坂城本丸は、いま地上でその姿を見ることができません。しかし、この60年間で、積み重ねられた調査により、その埋没状況が明らかになりつつあります。発掘やボーリングの調査成果から、豊臣期大坂城本丸の姿に迫ります。

3. 「豊臣大坂城はどこまでわかっているか」

岸本 直文^{きしもと なおふみ}（大阪市立大学大学院文学研究科教授）

豊臣大坂城の復元は、絵画資料と文献による研究、そして発掘調査の成果にもとづき進められてきました。これまでの調査研究でわかったことや考えられていることについて、わかりやすく紹介し、地下に眠る豊臣大坂城に迫ってみたいと思います。

【第 2 部】真田丸の真の姿を解明する（13 時 20 分～15 時 20 分）

1. 「大坂城惣構(そうがまえ)の復元と真田丸」

積山 洋^{せきやま ひろし}（大阪文化財研究所学芸員）

大坂城の外堀である惣構は冬の陣で鉄壁の防御力を発揮しました。その詳細な位置復元により、惣構南堀の様相が判明しつつあります。南堀には地形的な弱点があった。それを克服するために築かれたのが真田出丸だったという仮説を述べてみます。

2. 「絵図・地形図からみた真田丸の位置と構造」

松尾 信裕^{まつお のぶひろ}（大阪歴史博物館学芸員）

明治 19 年（1886）作製の『大阪実測図』に記載された字名を検討して真田丸跡の位置を推定します。また近世の大坂三郷図を用いながら、江戸時代に描かれた各種真田丸図の内容を検討します。あわせて真田丸が大坂城とどのように連携していたのかを分析します。

3. 「大坂冬の陣と真田丸の戦い」

大澤 研一^{おおさわ けんいち}（大阪歴史博物館学芸員）

最新の真田丸の構造復元研究や大坂城・城下町の空間構造研究の成果を踏まえ、研究が手薄だった大坂城防衛における真田丸の位置づけを行います。真田丸の戦いが大坂冬の陣に占めた意義を改めて考察し、真田丸研究の相対化・深化をめざします。

【第 3 部】ディスカッション「真田丸」から見た＜豊臣大坂＞研究の可能性

（15 時 30 分～16 時 30 分）

第 1 部・第 2 部の登壇者がパネラーとなり、議論を深めます。

【閉会挨拶】

※時間につきましては、若干の変更がある場合がございます。予めご了承ください。

5. 定 員：250 名（事前申込が必要）

6. 参加費：無料

7. 申込方法：

往復はがきに、①住所、②氏名（ふりがな）、③連絡先電話番号を記入し、返信面に返信先住所・宛名を記入の上、応募期間内に下記の宛先までお申し込みください。

【申 込 先】 〒540-0008 大阪府中央区大手前 4-1-32 大阪歴史博物館内
（公財）大阪市博物館協会 「真田丸」の歴史学 係

【応募期間】 平成 28 年 11 月 1 日（火）～18 日（金）

※ 必ず上記の応募期間内にご応募ください。（期間内の消印のついたハガキのみ有効です）
期間外のご応募はお受けいたしません。

※ 1 枚のはがきに 1 名のみ記載可。重複応募不可。申込多数の場合は抽選となります。

※ 参加申込された方の個人情報は、この事業に関する連絡のみに使用します。また、本人の同意なしに個人情報を第三者に開示・提供することはありません。

8. 問合せ： 大阪市総合コールセンター なにわコール（午前 8 時～午後 9 時）
TEL 06-4301-7285 / FAX 06-6373-3302

9. 主 催： 公立大学法人大阪市立大学・公益財団法人大阪市博物館協会

10. 取材について：

本事業について取材をご希望の場合は事前に下記までご連絡ください。

（公財）大阪市博物館協会 総務部 企画調整課

電話：06-6940-0569／FAX：06-6940-0551

【本件に関する問い合わせ先】

大阪市立大学 地域連携センター

担当：北岡、北山

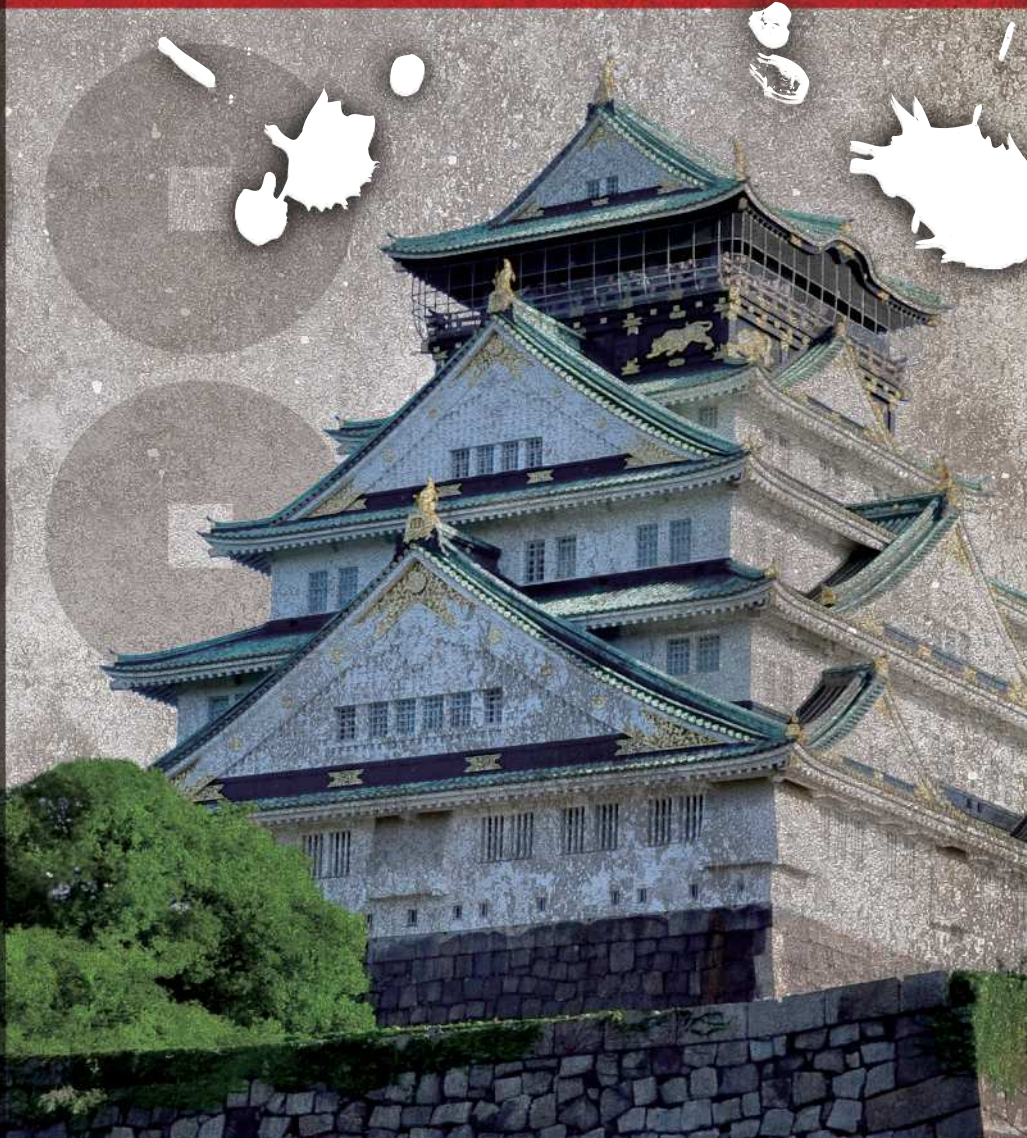
TEL：06-6605-3504 FAX：06-6605-3505

電子メール：shidai@ado.osaka-cu.ac.jp

シンポジウム

公立大学法人大阪市立大学・公益財団法人大阪市博物館協会
包括連携協定企画

真田丸の 歴史学



平成28年
12月17日 土
10時20分～16時40分

大阪歴史博物館 最寄駅からの案内図



会場 **大阪歴史博物館 4階 講堂**

大阪府中央区大手前 4-1-32

(最寄駅) 地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目駅」②号・⑨号出口

参加費 **無料** (定員 **250名** (事前申し込み制))

本シンポジウムへのご参加には事前申し込みが必要です

【参加申込方法】 往復はがきに、①住所、②氏名(ふりがな)、③連絡先電話番号を記入し、返信面に返信先住所・宛名を記入の上、応募期間内に下記宛先までお申し込みください。

【申込先】 〒540-0008 大阪府中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内
(公財) 大阪市博物館協会 「『真田丸』の歴史学」係

【問い合わせ先】 TEL.06-4301-7285 大阪市総合コールセンター：なにわコール
(午前8時～午後9時 年中無休)

【応募期間】 平成28年**11月1日**(火)～**18日**(金) ※当日消印有効

※必ず上記の応募期間内にご応募ください。(期間内の消印のあるはがきのみ有効です。)期間外のご応募はお受けいたしません。

※1枚のはがきに1名のみ記載可。重複応募不可。申込多数の場合は抽選となります。

※参加申込された方の個人情報は、この事業に関する連絡のみに使用します。また、本人の同意なしに個人情報を第三者に開示・提供することはありません。

主催 公立大学法人大阪市立大学・公益財団法人大阪市博物館協会

「真田丸」の歴史学

平成28年12月17日 土

10時20分～16時40分

大阪歴史博物館 4階 講堂

大河ドラマ「真田丸」にかかわってさまざまな講演会が催され、書籍が出版されていますが、真田丸を学術的に検討した成果は限られています。それを市民向けに発信する機会も少ないのが現状です。

本シンポジウムでは、最新の研究によって真田丸がどこまで解明できるのかを追究します。新発見の絵図なども活用しながら既存の復元研究を批判するとともに、新しい視点から真田丸の意義を明らかにします。また、大阪市立大学ならびに大阪文化財研究所などがこの間とりくんできた豊臣期大坂城解明の成果についてもまとめ、公開します。

第1部 <豊臣大坂> — 最新の研究 — 10時20分～12時20分

<豊臣大坂>と真田信繁(幸村)

仁木 宏 (大阪市立大学大学院文学研究科教授)

豊臣時代は日本の歴史上、未曾有の変革期です。大坂は政権の首都としてその中心的舞台でした。真田信繁の大坂での活動と関連づけて大坂城・城下町の意義を説明します。

見えてきた豊臣期大坂城本丸

市川 創 (大阪府教育庁文化財保護課技師)

江戸幕府による大坂城再築に際し完全に埋め立てられたため、豊臣期の大坂城本丸は、いま地上でその姿を見ることができません。しかし、この60年間で、積み重ねられた調査により、その埋没状況が明らかになりつつあります。発掘やボーリングの調査成果から、豊臣期大坂城本丸の姿に迫ります。

豊臣大坂城はどこまでわかっているか

岸本直文 (大阪市立大学大学院文学研究科教授)

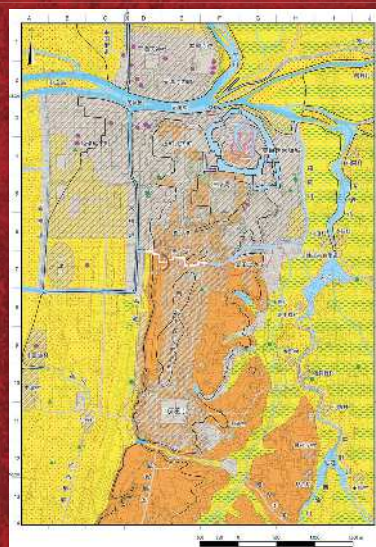
豊臣大坂城の復元は、絵画資料と文献による研究、そして発掘調査の成果にもとづき進められてきました。これまでの調査研究でわかったことや考えられていることについて、わかりやすく紹介し、地下に眠る豊臣大坂城に迫ってみたいと思います。



山里丸におけるボーリング調査



大坂城惣構南堀跡の発掘調査 (大阪文化財研究所提供)



豊臣後期の上町台地古地理図 (大阪文化財研究所提供)



大坂冬の陣配陣図 (大阪歴史博物館蔵)

第2部 真田丸の真の姿を解明する 13時20分～15時20分

大坂城惣構の復原と真田丸

積山 洋 (大阪文化財研究所学芸員)

大坂城の外堀である惣構は冬の陣で鉄壁の防御力を発揮しました。その詳細な位置復原により、惣構南堀の様相が判明しつつあります。南堀には地形的な弱点があった。それを克服するために築かれたのが真田出丸だったという仮説を述べてみます。

絵図・地形図からみた真田丸の位置と構造

松尾信裕 (大阪歴史博物館学芸員)

明治19年(1886)作製の『大阪実測図』に記載された字名を検討して真田丸跡の位置を推定します。また近世の大坂三郷図を用いながら、江戸時代に描かれた各種真田丸図の内容を検討します。あわせて真田丸が大坂城とどのように連携していたのかを分析します。

大坂冬の陣と真田丸の戦い

大澤研一 (大阪歴史博物館学芸員)

最新の真田丸の構造復元研究や大坂城・城下町の空間構造研究の成果を踏まえ、研究が手薄だった大坂城防衛における真田丸の位置づけを行います。真田丸の戦いが大坂冬の陣に占めた意義を改めて考察し、真田丸研究の相対化・深化をめざします。

第3部 ディスカッション 15時30分～16時40分 「真田丸」から見た<豊臣大坂>研究の可能性

第1部・第2部の登壇者がパネラーとなり、議論を深めます。

*第1部と第2部の間にお昼休憩。第2部と第3部の間に休憩が入ります。ご了承ください。